

シンポジウム

S1 微生物群集の構造と動態の理解

3月29日(火) 9:15~11:45

CH1

コンピーナー：鈴木 仁人 (国立感染症研究所)

新谷 政己 (静岡大学)

共催：日本農芸化学会

後援：公益財団法人 大隅基礎科学創成財団, 新学術領域「ポストコッホ生態」

S1-1

自然環境中における細菌-プラスミド相互作用の網羅的解析

○鈴木 仁人 (国立感染症・薬剤耐性研究センター)

S1-2

A distribution survey of environmental microbiome by single-cell genomics

○星野 仁彦¹, 吉田 光範¹, 西川 洋平³, 鈴木 仁人², 深野 華子¹, 竹山 春子³, 鈴木 敏彦⁴ (1感染研・感染制御, 2感染研・AMRセンター, 3早稲田大・生命医科・生命分子工, 4東京医科歯科・細菌感染制御)

S1-3

Identification of novel microbes using cocultivation with *Acanthamoeba*

○永井 宏樹 (岐大・医・病原体制御)

S1-4

シングルセルレベルの解析技術を用いたプラスミドの動態解明

○新谷 政己^{1,2} (1静岡大・院・総合科技, 2静岡大・グリーン研)

S1-5

放線菌の持つ窒素酸化物を利用した二次代謝の多様性

○勝山 陽平^{1,2} (1東大院・農生科・応生工, 2東京大学微生物科学イノベーション連携研究機構)

S1-6

イメージングで捉える細菌の細胞外膜小胞輸送

○豊福 雅典^{1,2,3} (1筑波大・生命環境, 2MiCS, 3SunRise)

S2 バクテリアの表層変化と生存戦略

3月29日(火) 9:15~11:45

CH3

コンピーナー：塩見 大輔 (立教大学)

田岡 東 (金沢大学)

S2-1

細菌パーシスター化における膜内切断プロテアーゼ RseP の役割：生理学的及び構造学的アプローチ

○檜作 洋平¹, 横山 達彦¹, 三宅 拓也¹, 小林 達也¹, 今泉 友希², 高貫 一徳², 大井 里香², 禾 晃和², 秋山 芳展¹ (1京大・ウイルス・再生研, 2横浜市大・生命医科)

S2-2

緑膿菌バイオフィームにおける細胞表層変容と膜小胞放出の惹起

○田代 陽介^{1,2} (1静大院・総合科技・工, 2JSTさきがけ)

S2-3

Direct observation of proliferation of cell wall-deficient *Escherichia coli* cells

○塩見 大輔¹, 林 匡史¹, 浪川 結衣¹, 高岡 ちぐさ¹, 大島 拓² (1立教大・理・生命理, 2富山県立大・工・生物工)

S2-4

バクテリアの生存を支える表層形成タンパク質の輸送機構

○塩田 拓也¹, ジャーマニー エドワード¹, シェン シンファイ³, リスゴート レパー² (1宮大・テニュアトラック推進, 2モナッシュ大学・微生物学, 3モナッシュ大学・材料工学)

S2-5

走査型イオン伝導顕微鏡による生きた細菌表層のナノスケール物性およびその動態の観察

○渡辺 信嗣¹, Linhao Sun¹, 菊池 洋輔^{1,2}, 田岡 東^{1,2} (1金沢大・ナノ生命, 2金沢大・理工)

S3 ゲノム解析が拓くファージ研究の新展開

3月29日(火) 9:15~11:45

CH4

コンピーナー：常田 聡 (早稲田大学)

岩野 英知 (酪農学園大学)

共催：日本ファージセラピー研究会

S3-1

大腸菌ファージの宿主特異性を担う宿主外膜タンパク質とファージリガンドの関係

○宮永 一彦 (東工大・生命理工学院・生命理工学系)

S3-2

Bacillus cereus グループの広宿主域 Jumbo ファージのゲノム構造と感染機構

○土居 克実 (九大院・農・微生物遺伝子)

S3-3

C型とD型ボツリヌス毒素を支配するバクテリオファージの溶原化機構の解析

○阪口 義彦¹, 武 晃¹, 後藤 和義², 山本 由弥子², 幸田 知子³, 向本 雅郁³, 小崎 俊司³, 林 俊治¹, 林 哲也⁴, 小熊 惠二² (1北里大・医・微生物, 2岡山大院・医歯薬学総合・病原細菌, 3大阪府大院・生命環境・獣医感染症, 4九大院・医・細菌)

S3-4

メタゲノム解析を基盤としたファージ未来医療にむけて

○植松 智^{1,2} (1大阪市大・医・ゲノム免疫, 2東大・医科研・メタゲノム医学)

S3-5

ゲノム解析を使った薬剤耐性菌の迅速なプロファイリング

○今西 規 (東海大・医・分子生命科学)

S3-6

緑膿菌のゲノム解析で紐解くファージ耐性化メカニズムとファージセラピーへの応用

○藤木 純平¹, 中村 圭佑¹, 中村 暢宏¹, 古澤 貴章¹, 権平 智², 臼井 優³, 樋口 豪紀², 田村 豊³, 岩野 英知¹ (1酪農大・獣医・獣医衛生化学, 2酪農大・獣医・獣医衛生, 3酪農大・獣医・食品衛生)

S4 生体防御研究の現状と展望

3月30日(水) 9:15~11:45

CH1

コンピーナー: 中川 一路 (京都大学)

金城 雄樹 (慈恵医科大学)

共催: 日本生体防御学会

S4-1

新型コロナウイルスに対する中和抗体と感染増強抗体

○荒瀬 尚^{1,2} (1阪大・微研・免疫化学, 2阪大・免疫フロ・免疫化学)

S4-2

蛋白質精製技術を活用したコロナウイルス研究

○橋口 隆生 (京大・ウイルス再生研・ウイルス制御)

S4-3

栄養から眺めるマラリア原虫と宿主の相互作用

○嘉糠 洋陸 (慈恵医大・熱帯医学)

S4-4

ゼノファジー研究の新展開: 細菌糖鎖認識によるゼノファジー制御の解明

○中川 一路 (京大・医・微生物感染症)

S4-5

活性酸素と超硫黄分子による生体防御の共進化論

○赤池 孝章 (東北大・院・医・環境医学)

S5 レンサ球菌研究の新しい風

3月30日(水) 9:15~11:45

CH3

コンピーナー: 小川 道永 (国立感染症研究所)

野澤 孝志 (京都大学)

S5-1

NanoLucを用いた肺炎球菌の細胞付着・侵入効率を定量化する方法の開発とその応用

○小川 道永¹, 雫石 早矢佳^{1,2,3}, 梁 明秀², 明田 幸宏¹, 大西 真⁴ (1国立感染症研・細菌1, 2横浜市大・医・微生物, 3学振特別研究員, 4国立感染症研)

S5-2

臨床現場から見えてくるレンサ球菌の特異な一面

○菊池 賢 (東京女子医大・感染症科)

S5-3

ウイルス感染に合併する細菌性肺炎の病態増悪機構

○住友 倫子, 川端 重忠 (阪大・院歯・口腔細菌)

S5-4

A群レンサ球菌の高病原化変異発生機序の解析

○竹本 訓彦, 秋山 徹 (感染症制御・国立国際医療研究センター)

S5-5

ヒト口腔常在性日和見レンサ球菌が産生する溶血毒素の構造的および機能的多様性と病原性への寄与

○田端 厚之 (徳島大・院社会産業理工学・生物資源産業学域)

S5-6

A群レンサ球菌によるオートファゴソーム膜傷害とその修復機構

○野澤 孝志, 中川 一路 (京大・院医・微生物)

S6 細菌のリバーシブル変異と適応戦略

3月30日(水) 9:15~11:45

CH4

コンピーナー: 三室 仁美 (大阪大学・大分大学)

S6-1

挿入配列の切り出しによる大腸菌 O121:H19 の乳糖分解性の再活性化

○中村 佳司¹, 勢戸 和子², 磯部 順子³, 林 哲也¹ (1九大院・医・細菌学, 2大安研, 3富山県・衛研)

S6-2

Spontaneous phase shift during the establishment of pneumococcal colonization

○河野 正充 (和歌山県立医大・医・耳鼻咽喉)

S6-3

マルチプレックスゲノム編集を用いて *Campylobacter jejuni* の表現型を制御する

○山本章治, 伊豫田 淳, 大西 真 (感染研・細菌第一)

S6-4

環境高分布性好熱菌と転位因子の共存に関する考察

○鈴木 宏和 (鳥取大・工・化学バイオ)

S6-5

黄色ブドウ球菌 Agr 系の相変異

○森川 一也¹, Vishal Gor¹, 東出 正人², Veronica Medrano Romero¹, 大庭 良介¹ (¹筑波大・医, ²江東微研)

S6-6

宿主とファージが利用する部位特異的組換え機構

○佐藤 勉 (法政大・生命科・生命機能)

S7 超硫黄科学が切り拓くエネルギー代謝とストレス応答の新展開

3月31日(木) 9:15~11:45

CH1

コンピーナー: 澤 智裕 (熊本大学)

赤池 孝章 (東北大学)

共催: 学術変革領域 A「硫黄生物学」

S7-1

超硫黄分子による細菌の薬剤耐性誘導機構と解明と治療戦略

○澤 智裕 (熊本大・院生命科学・微生物)

S7-2

転写因子 NRF2 による超硫黄を利用したエネルギー代謝とストレス応答

○本橋 ほづみ (東北大・加齢研・遺伝子発現制御分野)

S7-3

超硫黄分子によるミトコンドリアエネルギー代謝と感染防御機構の解明

○松永 哲郎¹, 澤 智裕², 本橋 ほづみ³, 赤池 孝章¹ (¹東北大・院医・環境医学, ²熊本大・院生命科学(医)・微生物学, ³東北大・加齢医学・遺伝子発現制御)

S7-4

大腸菌の硫化水素応答性転写因子 YgaV は嫌気呼吸関連遺伝子群の発現制御を介して抗生物質耐性を向上させる

Rajalakshmi Balasubramanian, ○増田 真二 (東工大・生命理工)

S7-5

酵母における超硫黄分子の生理的意義—寿命制御と小胞体の恒常性維持—

○西村 明¹, 高木 博史¹, 赤池 孝章² (¹奈良先端大・バイオ, ²東北大・院医・環境医学)

S8 抗体医薬を用いた感染制御戦略

3月31日(木) 9:15~11:45

CH3

コンピーナー: 松村 拓大 (金沢大学)

小田 真隆 (京都薬科大学)

S8-1

本邦の細菌感染症に対する抗体医薬の現状と未来

○阿戸 学¹, 松村 隆之² (¹国立感染研・ハンセン・感染制御, ²国立感染研・治療薬ワクチン)

S8-2

血清療法による感染症治療例の紹介

○一三 亨¹, 大谷 典生¹, 黒田 泰弘², 岡崎 智哉² (¹聖路加国際病院・救急部・救命救急センター, ²香川大・救命救急センター)

S8-3

ヒト抗破傷風毒素抗体による感染症制御戦略

○安居 輝人^{1,2,3} (¹医薬基盤健康研・感染症制御, ²富山県大・工・医薬品工・統合オミックス, ³医薬基盤健康研・ワクチン・アジュバント研究センター・免疫バイオリジクス)

S8-4

ボツリヌス神経毒素を利用した神経細胞への抗体送達によるボツリヌス中毒の治療

○宮下 慎一郎¹, Jie Zhang², Sicai Zhang^{2,3}, 相根 義昌¹, Charles Shoemaker⁴, Min Dong^{2,3} (¹東京農大・生物産業・食香粧化学, ²Dept. Urol, Boston Child. Hosp., ³Dept. Surg., Dept. Microbiol., Harvard Med. Sch., ⁴Dept. Infect. Dis. Glo. Health, Cummings Sch. Vet. Med. Tufts Univ.)

S9 多様性で彩る抗酸菌研究の魅力

3月31日(木) 9:15~11:45

CH4

コンピーナー: 瀬戸 真太郎 (結核研究所)

西山 晃史 (新潟大学)

共催: 抗酸菌研究会

S9-1

MAIT cell-directed therapy of *Mycobacterium tuberculosis* infection

○酒井 俊祐, Daniel Barber (T Lymphocyte Biology Section, LPD, NIAID/NIH, USA)

S9-2

Inactivation of DNA function by intrinsically disordered histone-like protein in mycobacteria

○西山 晃史¹, 清水 将裕^{2,3}, 古寺 哲幸², Anna Savitskaya¹, 尾関 百合子¹, 真柳 浩太⁴, 山口 雄大⁵, 立石 善隆¹, 松本 壮吉¹
(¹新潟大院・医歯学総合・細菌, ²金沢大・ナノ生命科学研究, ³京都大・複合原子力科学研, ⁴九州大・生体防御医学研, ⁵大阪市大院・医・分子病態薬理)

S9-3

非結核性抗酸菌症の宿主疾患感受性遺伝子

○南宮 湖 (慶應義塾大・医・感染症学)

S9-4

TREM2 を介した抗酸菌の免疫回避機構

○原 博満, 飯笹 英一 (鹿児島大・院・医歯学・免疫)

S10 多様な視点から見た真菌学研究とその未来

3月31日(木) 16:00~18:30

CH2

コンピーナー: 豊留 孝仁 (帯広畜産大学)
松本 靖彦 (明治薬科大学)

共催: 日本医真菌学会, 日本微生物学連盟

S10-1

いもち病菌の病原性進化機構を染色体構造から探る旅

○中馬 いづみ (帯広畜産大)

S10-2

呼吸器感染症における真菌とウイルス・細菌の相互作用

○南宮 湖 (慶應義塾大・医・感染症学)

S10-3

多糖の高感度検出技術開発と真菌研究への応用

○山中 大輔 (東京薬科大・薬・免疫学)

S10-4

高病原性クリプトコックス症に対する獲得免疫とワクチンの研究: 米国 NIH への留学を経験して

○上野 圭吾, 宮崎 義継 (感染研・真菌部)

S10-5

多様な視点から見た真菌学研究とその未来 臨床医の立場から

○高園 貴弘 (長崎大・院医歯薬・臨床感染症学)

S11 細菌毒素研究の新たな展開を目指して

3月31日(木) 16:00~18:30

CH3

コンピーナー: 田端 厚之 (徳島大学)
小林 秀丈 (広島国際大学)

S11-1

ボツリヌス毒素複合体と腸管ムチンとの相互作用解析

○阿松 翔^{1,2}, 松村 拓大¹, 森本 ちよの¹, 北村 真悠¹, 藤永 由佳子¹ (¹金沢大・医・細菌学, ²金沢大・医・法医学)

S11-2

宿主防御機構に及ぼす志賀毒素産生性大腸菌毒素 subtilase cytotoxin の影響

○津々木 博康¹, 八尋 錦之助², 赤池 孝章³, 澤 智裕¹ (¹熊本大・院生命科学・微生物学, ²京都薬科大・微生物・感染制御学, ³東北大・院医・環境医学)

S11-3

ウェルシュ菌およびディフィシル菌由来の二成分毒素: クライオ電子顕微鏡による複合体構造とその膜透過機構

○津下 英明^{1,2,3} (¹京都産業大・生命科学部, ²タンパク質動態研究所・京都産業大学, ³感染症分子研究センター・京都産業大学)

S11-4

バルトネラ由来血管新生オートトランスポーターの生物活性と創薬利用の可能性

○塚本 健太郎 (藤田医大・医・微生物)

S11-5

ボルデテラの毒素

○堀口 安彦^{1,2} (¹阪大・微研・分子細菌, ²阪大・感染症総合教育研究拠点)

S12 海外拠点からの報告: 感染症研究の最前線

3月31日(木) 16:00~18:30

CH4

コンピーナー: 山崎 伸二 (大阪府立大学)
藤永 由佳子 (金沢大学)

共催: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

S12-1

Basic research on the development of a new treatment for infections with enveloped viruses

○合田 仁 (東京大・医科研・アジア感染症研究拠点)

S12-2

タイ研究拠点を活用した急性下痢症に関する共同研究の展開

○岡田 和久 (阪大・微研・日タイ感染症)

S12-3

インド・コルカタ地域でのコレラ症の拡散に関する研究

○岡本 敬の介 (岡山大・インド感染症共同研究センター)

S12-4

ハノイ・ベトナム拠点における研究活動

○竹村 太地郎 (長崎大・熱帯医学研究所・ベトナム拠点)

S12-5

ザンビアにおける人獣共通感染症対策のための研究

○鈴木 定彦¹, 澤 洋文² (¹北大・人獣研・バイオリソース, ²北大・人獣研・分子病態・診断)

ワークショップ

W1 細胞膜で躍動するタンパク質複合体の意外な素顔

3月29日(火) 14:30~16:30

CH1

コンピーナー: 小嶋 誠司 (名古屋大学)
南野 徹 (大阪大学)

W1-1

立体構造から見えてきた細菌べん毛モーター固定子の機能

○小嶋 誠司 (名古屋大・院理・生命理学)

W1-2

細菌べん毛モーターの力学応答に寄与する小さなリング

○竹川 宜宏 (阪大・院理・高分子科学)

W1-3

細菌のカルシウムチャンネルが示すカルシウム選択的なイオン透過機構

○入江 克雅 (和医大・薬・薬品物理化学)

W1-4

光感受性膜タンパクである酵素ロドプシンの分子メカニズム

○角田 聡 (名古屋工業大・院・生命応用化学)

W1-5

タンパク質の膜透過に関わるプロトン駆動型モーター SecDF の構造生命科学

○塚崎 智也 (奈良先端大)

W1-6

Energy coupling mechanism of the bacterial flagellar type III secretion system

○南野 徹 (阪大・生命機能)

W2 口腔感染症の新しい病因論

3月30日(水) 9:15~11:45

CH2

コンピーナー: 吉田 明弘 (松本歯科大学)
今井 健一 (日本大学)

W2-1

SARS-CoV-2 の口腔・唾液・気道感染

○加藤 貴史, 三上 優 (Marsico Lung Institute, Sch. Med., Univ. of North Carolina at Chapel Hill)

W2-2

The effect of oral dysbiosis on glucose/lipid metabolism

○片桐 さやか (Dept. Periodontol, TMDU)

W2-3

Fusobacterium nucleatum と大腸癌 —口腔の Fusobacterium nucleatum に注目して—

○吉原 努, 日暮 琢磨, 田村 繁樹, 高津 智弘, 三澤 昇, 芦 莉 圭一, 中島 淳 (横浜市大・医・肝胆膵消化器病)

W2-4

口腔細菌叢の乱れが招く腸炎の増悪メカニズム

○北本 祥, 鎌田 信彦 (ミシガン大・医・消化器内科)

W3 選抜ワークショップ1: 生理, 構造, 生態

3月30日(水) 16:00~18:00

CH1

コンピーナー: 知花 博治 (千葉大学)
高井 伸二 (北里大学)

W3-1/ODP-038

Delftia 属細菌はアルカリストレスを介して ROS 産生を誘導することで表皮ブドウ球菌の増殖を抑制する

○大久保 友隆^{1,2}, 松本 靖彦¹, 張 音実¹, 杉田 隆¹ (¹明治薬大・微生物, ²明治薬大・分析化学)

W3-2/ODP-041

大腸菌が産生する細胞外小胞を介した A 群レンサ球菌の増殖抑制

○河岸 優, 村瀬 一典, 相川 知宏, 野澤 孝志, 中川 一路 (京大院・医・微生物)

W3-3/ODP-032

母乳育児が乳幼児の口腔マイクロバイオームにおける母親口腔由来細菌の獲得を調整する

○影山 伸哉, 古田 美智子, 竹下 徹, 馬 佳栄, 朝川 美加李, 山下 喜久 (九大・歯・口腔予防)

W3-4/ODP-043

アルブミンによる VBNC 結核菌の再活性化機構

○森重 雄太¹, 村瀬 良朗¹, 近松 絹代¹, 青野 昭男¹, 五十嵐 ゆり子¹, 大薄 麻未¹, 鎌田 啓佑¹, 山田 博之¹, 高木 明子¹, 御手洗 聡^{1,2} (1結核研・抗酸菌部, 2長崎大・院・医歯薬総合・基礎抗酸菌症)

W3-5/ODP-064

マグネトソーム蛋白質 MamJ による MamK 細胞骨格の重合制御

○田岡 東^{1,2}, 齋藤 拓海¹, 菊池 洋輔² (1金沢大・理工, 2金沢大・ナノ生命)

W3-6/ODP-051

細菌べん毛固定子タンパク質 PomA への変異が回転方向切り替えに影響する

○寺島 浩行¹, 堀 清志郎², 井原 邦夫³, 本間 道夫², 小嶋 誠司² (1長崎大・熱研・細菌学, 2名大・院理・生命, 3名大・遺伝子)

W3-7/ODP-066

Multiple roles of flagellar export chaperones for flagellar filament formation in *Salmonella*

○南野 徹¹, 森本 雄祐^{2,3}, 木下 実紀¹, 難波 啓一^{1,4,5} (1阪大・生命機能, 2九工大・物理情報, 3JST・さきがけ, 4理研・生命機能, 5理研・SPRING-8)

W3-8/ODP-068

MntE を介したマンガンと亜鉛の排出は A 群レンサ球菌の増殖と病原性に不可欠である

○相川 知宏, 清水 玲秀, 村瀬 一典, 野澤 孝志, 中川 一路 (京大院・医・微生物)

W4 腸内でビフィズス菌優勢な菌叢が形成・維持される機構の解明とその意義

3月30日(水) 16:00~18:00

CH2

コンピーナー: 松木 隆広 (ヤクルト中央研究所)
大澤 朗 (神戸大学)

共催: ビフィズス菌研究会

W4-1

Bifidobacterium の消化管定着に寄与する細胞表面因子の役割

○西山 啓太 (慶大・医・微生物免疫)

W4-2

Insertion Sequencing 法によるビフィズス菌の腸内生存在に寄与する遺伝子の同定

○吹谷 智 (北大院・農・微生物生理)

W4-3

乳幼児期の有機酸構成の動的変化とビフィズス菌との関連

○矢矧 加奈, 佃 直紀, 松木 隆広 (ヤクルト中央研究所)

W4-4

プレバイオティクス応答者に関する分子レベルでの考察

○小田 卷 俊孝 (森永乳・研究本部・基礎研)

W4-5

ヒト乳児腸内に棲息するビフィズス菌の生理学的役割: 母乳成分の代謝から分かってきたこと

○阪中 幹祥 (京大院・生命)

W5 選抜ワークショップ2: 遺伝, 分類, 疫学

3月30日(水) 16:00~18:00

CH3

コンピーナー: 小椋 義俊 (久留米大学)
松井 英則 (北里大学)

W5-1/ODP-098

大腸菌 O157 株がもつトキシン-アンチトキシン系 ECs3274-ECs3275 の解析

○佐々木 優香¹, 吉岡 瑞貴¹, 茂木 優奈², 大塚 裕一¹ (1埼大・理工・分子生物, 2東大・新領域)

W5-2/ODP-001

大腸菌 O103:H2 国内分離株とデータベース株を用いた高精度系統解析及び完全長配列決定株のゲノム構造比較

○谷口 愛樹¹, 中村 佳司¹, 後藤 恭宏¹, 李 謙一², 大岡 唯祐³, 小椋 義俊⁴, 大西 真², 伊豫田 淳², 林 哲也¹ (1九州大・医・細菌学, 2感染研・細菌第一, 3鹿児島大・医歯学・微生物, 4久留米大・医・感染医学)

W5-3/ODP-014

熊本県内土壌中の破傷風菌の分布調査と分離菌の細菌学的・遺伝子学的解析

○志多田 千恵¹, 関塚 剛史², 坂本 智代美¹, 黒田 誠², 高橋 元秀¹ (1熊本保健科学大・生物毒素・抗毒素共同研究講座, 2国立感染研・病原体ゲノム解析研究センター)

W5-4/ODP-076

BeMAp for practical phylogenetic analysis and mapping of antimicrobial resistance plasmids

○津田 裕介¹, 鈴木 匡弘², 和知野 純一^{1,3}, 木村 幸司¹, 荒川 宜親^{1,3} (1名古屋大院・医・細菌学, 2藤田医大・医・微生物, 3修文大・医療科学・臨床検査)

W5-5/ODP-092

病原真菌 *Trichosporon asahii* における高効率な遺伝子組換え技術の開発

○松本 靖彦¹, 長町 多恵¹, 吉川 麻美¹, 山田 剛^{2,3}, 杉田 隆¹ (1明治薬科大・薬・微生物学, 2帝京大・医真菌, 3帝京大・アジア国際感染症制御)

W5-6/ODP-082

腸球菌の溶菌酵素 Bac41 は接合フェロモンによって発現制御され、細胞間のプラスミド維持に寄与する

○久留島 潤, 富田 治芳 (群馬大・医・細菌学)

W5-7/ODP-017

セレウス菌における PlcR 転写制御系の違いがスフィンゴミエリナーゼ産生量に与える影響

○横谷 篤¹, 高橋 歩実¹, 青山 諒子¹, 鴨志田 剛¹, 小阪 直史², 中西 雅樹³, 藤田 直久⁴ (1京葉大・薬・微生物, 2京府医・医・薬剤部, 3京府医・医・感染検, 4京都府保健環境研究所)

W5-8/ODP-086

ウェルシュ菌の温度依存的な *iol* オペロン発現制御による環境適応機構の解析

○福田 良亮¹, 尾花 望^{2,3}, 野村 暢彦^{3,4} (1筑波大・生命環境, 2筑波大・医・TMRC, 3筑波大・MiCS, 4筑波大・生命環境系)

W6 選抜ワークショップ3：病原性

(毒素・エフェクター・生理活性物質・接着因子・定着因子)

3月30日(水) 16:00~18:00

CH4

コンピーナー：川端 重忠 (大阪大学)
大原 直也 (岡山大学)

W6-1/ODP-121

A群レンサ球菌の毒素 NAD-glycohydrolase は宿主翻訳機構を阻害する

○藤 博貴, 野澤 孝志, 中川 一路 (京大院・医・微生物感染症)

W6-2/ODP-109

肺炎球菌のニューモライシンによる鼻粘膜上皮バリアの傷害と脳伝播機構の解析

○高原 悠樹¹, 住友 倫子¹, 河野 正充³, 山口 雅也¹, 中田 匡宣⁴, 保富 宗城³, 川端 重忠¹ (1阪大・院歯・口腔細菌, 2阪大・院歯・クラウンブリッジ, 3和医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 4鹿大・院歯・口腔微生物)

W6-3/ODP-125

Aeromonas セリンプロテアーゼのタイトジャンクションの破壊は菌の上皮バリア透過を引き起こす

○小林 秀丈¹, 清家 総史¹, 高橋 栄造², 岡本 敬の介³, 山中 浩泰¹ (1広島国際大・薬・分子微生物科学, 2横浜薬科大・感染予防学, 3岡山大学院・医歯薬・インド感染症共同研究センター)

W6-4/ODP-135

大腸菌由来 CirA による細胞外小胞を介したマクロファージの炎症反応

○今宮 里沙¹, 岡 真優子², 篠原 明莉², 堀口 安彦^{3,4} (1京都府大・生命環境・食品安全性学, 2京都府大院・生命環境科・食環境安全性学, 3阪大微研・分子細菌学, 4阪大・感染症総合教育研究拠点)

W6-5/ODP-110

パラ百日咳菌の産生するメラニンが宿主内における菌の生存を促進する

○平松 征洋¹, 西田 隆司¹, Dendi Krisna Nugraha¹, 堀口 安彦^{1,2} (1阪大・微研・分子細菌学, 2阪大・感染症総合教育研究拠点)

W6-6/ODP-118

気管支敗血症菌が産生する Bcr4 による III 型分泌装置制御機構の解析

○後藤 雅貴¹, 桑江 朝臣¹, 花輪 智子², 阿部 章夫¹ (1北里大・院・感染制御科学府・分子細菌, 2杏林大・医・感染症)

W6-7/ODP-102

腎臓細胞上でのレプトスピラ運動における菌体外膜成分の役割

○阿部 圭吾¹, 小泉 信夫², 中村 修一¹ (1東北大・院工, 2国立感染研究所・細菌第一部)

W6-8/ODP-105

気管内挿管チューブに定着し実験進化した *Acinetobacter baumannii* の病原性解析

○鴨志田 剛¹, 山口 大貴¹, 山田 倫暉¹, 竹本 訓彦², 八尋 錦之助¹ (1京大薬科大・微生物・感染制御学分野, 2国立国際医療研究センター・感染症制御・病原微生物)

W7 事例から考える感染症

3月31日(木) 13:05~15:05

CH1

コンピーナー：大岡 唯祐 (鹿児島大学)
小西 典子 (東京都健康安全研究センター)

W7-1

埼玉県で発生した *astA* 保有大腸菌 O7:H4 を原因とする大規模食中毒事例

○島田 慎一 (埼玉県衛生研究所・食品微生物担当)

W7-2

関東地方で分離された *Salmonella* Chester の全ゲノムシーケンスを用いた解析について

○安藤 直史 (千葉県衛研)

W7-3

熊本県で発生した C 型ボツリヌス菌による食中毒事例について

○八尋 俊輔, 森 美聡, 前田 莉花, 原田 誠也 (熊本県・保環研)

W7-4

沖縄県のヒトレプトスピラ症における実験室診断, 疫学的, 臨床的特徴

○柿田 徹也 (沖縄県衛研)

W7-5

2018 年に東京都内で発生した赤痢菌による 4 集団事例について

○河村 真保, 村上 昂, 小野 明日香, 小西 典子, 横山 敬子, 貞升 健志 (都健安研・微生物)

W8 侵襲性酵母様真菌感染症に対する診断・治療法の開発

3月31日(木) 13:05~15:05

CH2

コンピーナー：杉田 隆 (明治薬科大学)
田邊 公一 (龍谷大学)

共催：日本医真菌学会

W9-3/ODP-143

NanoBiT システムを応用した肺炎球菌の細胞付着からエンドソーム膜損傷までに関与する病原因子の探索

○梶石 早矢佳^{1,2}, 小川 道永¹, 明田 幸宏¹, 梁 明秀², 大西 真¹
(¹感染研・細1, ²横浜市大・医・微生物)

W9-4/ODP-141

インドールは芳香族炭化水素受容体からの刺激を阻害することで病原性クラミジア L2 の細胞内増殖を抑制する

○山口 博之¹, タパジーン², 大久保 寅彦¹, 古田 芳一², 中村 眞二³, 東 秀明² (¹北大院・保科・病態解析, ²北大・人獣共通感染症国際共同研究所, ³順天堂大院・医・形態解析イメージング)

W9-5/ODP-151

LLO は Lyn を介してインフラマソーム分子 ASC のリン酸化を亢進し感染病態を重症化させる

谷下 優子¹, 関谷 久輝¹, Gabriel Nunez², 吉村 昭彦¹, 原 英樹¹ (¹慶應大・医・微生物免疫, ²Dept. Pathol., Sch. Med., Univ. Mich.)

W9-6/ODP-153

ykcB 遺伝子の欠損が枯草菌の病原性上昇を導く

○高野 大輝, 垣内 力, 古田 和幸 (岡山大・院医歯薬・分子生物学)

W9-7/ODP-146

非天然アミノ酸クロスリンカーの髄膜炎菌への導入法を用いた機能未知の病原性因子の機能解明

○高橋 英之¹, 大西 真¹, 志牟田 健¹, 横山 茂之², 柳沢 達男²
(¹国立感染研・細菌1, ²理研・横山構造生物学研究室)

W9-8/ODP-168

A 型ウエルシュ菌感染時の Toll 様受容体 4 の役割

○竹原 正也, 小林 敬子, 永浜 政博 (徳島文理大・薬・微生物)

W10 選抜ワークショップ 5：抗菌性物質，薬剤耐性

3月31日(木) 13:05~15:05

CH4

コンピーナー：横田 伸一 (札幌医科大学)
富田 治芳 (群馬大学)

W10-1/ODP-212

臨床検体から分離された Gemella のキノロン耐性の遺伝子学的解析

○古垣内 美智子¹, 荒井 裕子², 鶴澤 豊², 菊池 賢² (¹近大病院・検査部, ²東京女子医大・感染症科)

W10-2/ODP-220

緑膿菌の薬剤排出ポンプは低濃度マクロライドによる一酸化窒素抵抗性の減弱を抑制する

○鈴木 真¹, 森田 雄二², 清水 健¹ (¹千葉大・院医・病原細菌制御学, ²明治薬科大・感染制御学)

W8-1

Emerging yeast, *Candida auris*

○菊池 賢 (東京女子医大・感染症科)

W8-2

Candida glabrata を用いた抗真菌薬開発のための標的遺伝子スクリーニング

○知花 博治, 笹本 要, 中野 恵子, 佐藤 美智代, 高橋 梓 (千葉大・真菌センター)

W8-3

新たな抗真菌薬感受性試験の開発に向けて

○田邊 公一¹, 名木 稔^{2,3}, 宮崎 義継² (¹龍谷大・農, ²国立感染研・真菌部, ³国立感染研・薬剤耐性研究センター)

W8-4

カンジダ属真菌の細胞表面多糖の解析

○浦井 誠 (東京農大・生命科学・分子生命化学)

W8-5

皮膚常在菌 *Malassezia* が引き起こす感染症に二形成変換が関与するか

○杉田 隆, 張 音実 (明治薬大・微生物)

W9 選抜ワークショップ 4：病原性 (細胞内侵入/増殖/寄生・免疫回避), 生体防御

3月31日(木) 13:05~15:05

CH3

コンピーナー：東 秀明 (北海道大学)
土門 久哲 (新潟大学)

W9-1/ODP-189

GBP 1 は TBK1 のリン酸化を介して A 群レンサ球菌に対する選択的オートファジーを制御する

○曳地 京, 野澤 孝志, 中川 一路 (京都市大・医・微生物感染症学)

W9-2/ODP-170

老化により肺炎球菌感染症が重症化する機構のマウスモデルを用いた探索

○山口 雅也¹, 川西 邦夫², 小林 桃子¹, 元岡 大祐³, 奥崎 大介^{3,4}, 川端 重忠¹ (¹阪大・院歯・口腔細菌, ²筑波大・医学医療系, ³阪大・微研, ⁴阪大・免フロ)

W10-3/ODP-222

環境モニタリングに向けた薬剤耐性遺伝子上流配列 (ARG-UGS) 解析法の開発

○屋宜 宣慶, 平井 到 (琉球大・保健・微生物)

W10-4/ODP-209

CRISPRi 法を用いた多剤耐性に関する結核菌遺伝子の機能解析

○平田 直, 熊懷 香葉, 篠原 基子, 北川 結惟, 港 雄介 (藤田医大・医・微生物)

W10-5/ODP-198

Classification and characterization of bacteriocin immunity factors in *Streptococcus mutans*

○Mi Nguyen-Tra Le, 松尾 美樹, 小松澤 均 (広島大・医系科学・細菌学)

W10-6/ODP-213

アミノペニシリンポリカルボキシル化誘導体による抗緑膿菌作用

○豊元 柁弥, Akter Shahinur, 津々木 博康, 小野 勝彦, 張 田 力, 澤 智裕 (熊本大院・生命科学・微生物)

W10-7/ODP-214

MRSA のフェージ耐性獲得による β ラクタム系抗菌薬の再感受性化

○中村 暢宏¹, 西田 啓汰¹, 藤木 純平¹, 村田 亮², 山本 一貴³, 市川 聡³, 岩野 英知¹ (¹酪農大・獣医・獣医生化学, ²酪農大・獣医・獣医細菌学, ³北大・院薬・創薬科学)

W10-8/ODP-201

新規抗生物質ライソシン E は宿主と微生物の相互作用を利用して高い治療効果を発揮する

○浜本 洋¹, Suresh Panthee², Atmika Paudel³, 宮下 惇嗣¹, 関水 和久^{2,4} (¹帝京大・医真菌, ²帝京大・薬・カイコ創薬, ³北大・人畜共通感染症, ⁴ゲノム創薬研究所)